

第68回 医学教育セミナーとワークショップ

2018年 6月 2日(土)PM ~ 3日(日)AM

岐阜大学(医学部キャンパス)

併催

第6回 日本シミュレーション医療教育学会学術大会
第19回 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修

セミナー Simulation in Medical Education at McGill

TL 講師: Joyce Pickering (McGill大学)

WS-1 今どきの学生気質と対応

ML 企画: 藤崎和彦・川上ちひろ (MEDC)

WS-2 IRとは何か ~教職協働の視点から考える

A 企画: 恒川幸司 (MEDC)、浅田義和・松平薫子 (自治医科大学)、神山千晴 (岐阜大学)

WS-3 ニッポンの臨床教育: マギル大学病院の例からみる Tips & Practice

TL 企画: 西城卓也 (MEDC)、Joyce Pickering (McGill大学)

WS-4 シミュレーション教育のTips: メイクアップを活用してみよう!

TL 企画: 井上千鹿子 (日本医科大学)、阿部恵子 (愛知医科大学)、上原 任 (日本大学)、後藤道子 (三重大学)

WS-5 インストラクショナル・シミュレーションの実践講座

TL ~「急変させない患者観察テクニック」を教材に~

企画: 岡本華枝 (岐阜聖徳学園大学)、久宗真理 (防衛医科大学校)、池上敬一 (日本医療教授システム学会)

WS-6 医療現場での電話報告シミュレーション教育

TL 企画: 小西恵理 (松江赤十字病院)、赤嶺陽子 (大阪市立総合医療センター)、嶋岡 鋼 (国際医療福祉大学)、布原佳奈 (岐阜県立看護大学)、荘加路子 (津保川診療所)

* 記号 (**TL** 等) は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細は、MEDCホームページをご覧ください。

6月1日(金)			
13:00-18:00	教務事務職員研修		
6月2日(土)			
9:00-12:00	教務事務職員研修		
13:00-17:00	教務事務職員研修との合同WS		10:00- 日本シミュレーション 医療教育学会
	WS-1	WS-2	
17:15-18:15	合同セミナー		
18:30-20:00	合同懇親会		
6月3日(日)			
9:00-12:30	教務事務職員研修	日本シミュレーション医療教育学会との合同WS	
		WS-4	WS-5

第69回
信州大
2018/8/18-19

第70回
自治医大
2018/11/3-4

第71回
岐阜
2019/1/25-26

第72回
岐阜
第20回教務事務職員研修
2019/5/24-26



2018
春

セミナー Simulation in Medical Education at McGill

TL

講師：Joyce Pickering, MD, MSc, FRCPC, FACP (McGill大学)

日時：6月2日(土)17:15~18:15

概要：Simulation has become an important medical education method in the last 15 years. Its development has been stimulated by models from industry, from decreasing opportunities for clinical exposure for trainees, an increased emphasis on patient safety, and recognition of the some of the limitations of the apprenticeship model of medical training. It is one of the few medical education methods which has been able to show a direct positive relationship with patient outcomes. Simulation teaching methods vary widely – from using specific task trainers (high or low tech), to high fidelity mannequins, to teaching communications, ethics and teamwork. Key concepts in simulation teaching include integration with the curriculum, feedback/debriefing, deliberate practice and mastery learning. The development of the simulation centre at McGill University Faculty of Medicine will be described. We will explain how it is funded, staffed, and how it is integrated within the various curricula of the schools of the faculty of medicine. We will also describe the strategies used to introduce simulation to curricula and to faculty members who had previously taught using only traditional methods. We give examples on-going challenges to the continued most effective use of simulation as we move our curricular model to competency based medical education.

WS-1 今どきの学生気質と対応

ML

企画：藤崎和彦・川上ちひろ (MEDC)

日時：6月2日(土)13:00~17:00 (4時間)

概要：教育の場で学生や新入職員、若手学習者への対応に悩んでいることはないだろうか？不真面目であったり、なめて手抜きして、でも最終的には煮詰まって抜き差しならなくなってしまうような学習者。自分の進路に悩んだり、専門に関心を持ってない学習者。障害や疾患を抱えている学習者や真面目だけど学び方や生活面で困難を抱えている学習者。多くの場合、こういった対応の難しい学習者の問題はすべて「学習者の問題」と捉えがちだが、実は「教育する側の問題」であったり「学習の場のシステムの問題」であることも少なくはない。また、こういった学習者が問題を起こすと、すぐに叱りつけるような対応になりがちだが、学習者側の状況や思いをよく聞いてみると、叱るだけでは問題解決が出来ないような事情が明らかになったりもする。これまでは教務事務職員研修のみで行っていた企画を今回はオープンにして、幅広い参加者ととも、こういった学習者をどうとらえればいいのか、どう対応するのか、体験学習を交えながらみんなで考えたい。

対象：教務事務職員研修受講者、医療系教職員、新人教育担当者、若手学習者への対応に悩んでいるすべての方 定員：60名

WS-2 IRとは何か ~教職協働の視点から考える

A

企画：恒川幸司 (MEDC)、浅田義和・松平薫子 (自治医科大学)、神山千晴 (岐阜大学)

日時：6月2日(土)13:00~17:00 (4時間)

概要：分野別認証評価受審では、教育活動に対する「データを基にした自己点検評価」に基づいた改善を求められる。そこで、各大学医学部・医科大学では、教学IR (Institutional Research) 部門が設立されてきている。しかしながら、実際には『教学IR組織を立ち上げたは良いものの、何をどこまで調べたらよいか分からない』『調べたい内容は決まったが、データが散逸・散在していて困っている』などという問題にしばしば遭遇する。そのような問題を解決するためには、「データを使いたい側：教員」と「データを集める側：職員」との一体感ある協働が重要となる。そこで、教務事務職員研修と医学教育セミナーとワークショップが併催されるこの機会を利用して、医学教育の教学IR分野における真の教職協働とは何かを、所属の垣根を取り払って議論したい。

対象：教務事務職員研修受講者、IRを担当している、またはIRに興味のある教員・職員 定員：40名

WS-3 ニッポンの臨床教育：マギル大学病院の例からみる Tips & Practice

TL

企画：西城卓也 (MEDC)、Joyce Pickering (McGill大学)

日時：6月2日(土)13:00~17:00 (4時間)

概要：日本の医療現場での教育は、人手不足などにより多忙であり、海外のように多くの指導者を投入し、時間をかけて教育することは難しい。しかし魅力ある教育は若い人をひきつけるので、結果的に良い教育は人材の確保につながる事が期待される。近年は東京のみならず地方の優秀な高校生が、海外の医学部に進学する事例や研究報告も散見されるが、その理由の一つはよりよい臨床教育を受けたいことであるという。では時間のないニッポンの現場で、欧米にも勝るほどの患者中心の医療をするニッポンの指導医はどんな教育ができるだろうか？病院内での学生・研修医教育はどうしたらいいのか、現場の指導医の経験を踏まえつつコツを議論したい。岐阜大学と大学間協定を結んだマギル大学における臨床教育研修に参加した指導医と、日本在住経験もあり日本語も話せるマギル大学内科指導医の経験を中心にセッションをおおくりする。

対象：教務事務職員研修受講者、現場での臨床教育に関心のある医師、医療教育者 定員：40名

WS-4 シミュレーション教育のTips : メイクアップを活用してみよう!

TL

企画： 井上千鹿子（日本医科大学）、阿部恵子（愛知医科大学）、上原 任（日本大学）、後藤道子（三重大学）

日時： 6月3日(日)9:00～12:30 （3時間半）

概要： 近年、教育用シミュレータや模擬患者（SP）を活用したシミュレーション教育プログラムが開発、実施されている。より臨場感のあるシミュレーションをする場合、SPやシミュレータを直接、視診できることが望ましいが、これまでは文章で説明する、SPが口頭で述べる、写真を提示するなどの方法で代用されていた。これらの方法では病態・疾患を目で見て診断するトレーニングを想定した場合、現実とシミュレーションのギャップがあり、リアリティーに欠けることが多かった。本ワークショップでは、現実とシミュレーションのギャップを埋めるtipsとしてmakeupを取り上げる。この医療教育用の特殊なメイクアップは「ムラージュ」と呼ばれている。今回のWSでは、活用例の紹介のほか、化粧品や転写シールを組み合わせたシナリオの作成を体験するワークショップを行う。より効果的なシミュレーション教育を行うためのメイクアップの活用法を紹介したい。

※教材費として実費（500円）を当日徴収いたします。

対象： 医師・医療系の教育研修に携わる方（医師、歯科医師、看護師、医療従事者、模擬患者）

定員：25名

WS-5 インストラクショナル・シミュレーションの実践講座 ～「急変させない患者観察テクニック」を教材に～

TL

企画： 岡本華枝（岐阜聖徳学園大学）、久宗真理（防衛医科大学校）、池上敬一（日本医療教授システム学会）

日時： 6月3日(日)9:00～12:30 （3時間半）

概要： 看護学生や新人・若手看護師は看護情報から評価したり、判断したり、予測したりしながら看護実践を行うことは容易ではなく、患者の変化を見逃している場合や想定外のことが起こり慌てる体験をしている。看護実践経験の豊富な「できる」看護師は、患者情報から評価・判断・予測等により看護を実践している。この「できる」看護師の能力を形式知化した教材が「急変させない患者観察テクニック」である。形式知化する能力とは、患者情報から評価・判断し、プランを生成・選択したことを、言語化できる能力である。看護実践能力を形式知化できる能力があれば、臨床での先輩への指導や看護教育に活かすことができる。このワークショップでは、「できる」看護師として適切に振る舞うための考える技能や患者安全を担保するための看護実践を目指した、効果・効率・魅力を向上するインストラクショナル・シミュレーション教育の原理と方法を紹介したい。

対象： 医療系教育機関の教員、医療施設の臨床研修指導者

定員：20名

WS-6 医療現場での電話報告シミュレーション教育

TL

企画： 小西恵理（松江赤十字病院）、赤嶺陽子（大阪市立総合医療センター）、嶋岡 鋼（国際医療福祉大学）、布原佳奈（岐阜県立看護大学）、荘加路子（津保川診療所）

日時： 6月3日(日)9:00～12:30 （3時間半）

概要： 臨床現場では日常的に診療に関する情報伝達が行われているが、電話による相談・報告は緊急度が高い場面で用いられることが多い。コミュニケーション手段が言語に限られるため、情報を緊急度を含めて正しく伝えるには困難を伴う。本ワークショップでは、医療チームのための情報伝達ツール“ISBAR”をもとに、学生を含めたすべての医療チームスタッフに应用可能な電話相談・報告教育コースの開発を目標とする。前半でコース例を実際に体験し、後半ではグループワークでシミュレーションを用いたコースプランニングを行う予定である。医療にかかわるすべての職種が直面する問題を題材に、対象や環境に応じた実践可能なシミュレーション教育のプランニングを体験していただきたい。

対象： 医療チームコミュニケーション教育に関心のある方すべて

定員：20名



参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

締め切り：2018年 5月 13日(日)

ホームページからお申し込みできない方は、お電話（058-230-6470）にてご連絡ください。
ワークショップ運営上、各々定員を設けております。
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

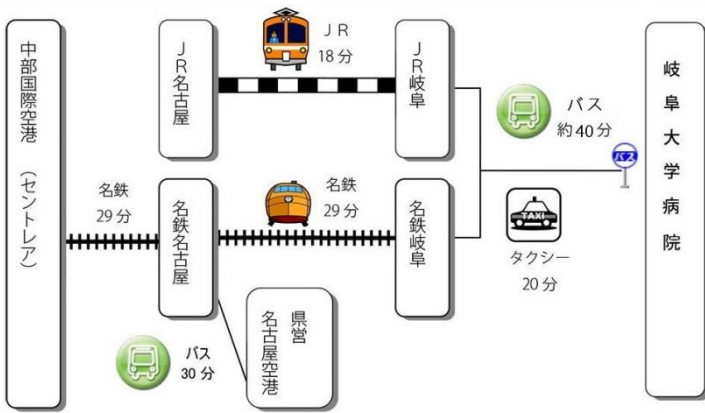
参加費： 2,000円 学部学生無料

懇親会費： 3,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。

参加費は、当日資料ならびに第68回医学教育セミナーとワークショップの報告が掲載されている「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。参加者には後日、「新しい医学教育の流れ」の冊子およびCD-ROMを送付いたします。
(学部学生への送付はありません)

会 場： 岐阜大学（医学部キャンパス）
(〒501-1194 岐阜市柳戸1-1)



JR岐阜駅 9 番のりば / 名鉄岐阜駅 5 番のりば
C70系統（清流ライナー、岐阜大学・病院線）

岐阜大学病院バス停（終点）または柳戸橋バス停（終点の1つ手前）で下車

自家用車でお越しの方は外来駐車場をご利用になり、受付まで駐車券をお持ちください。